



伊勢っ子

学校教育目標

夢を持ち続けながら進んで学ぶ、
心豊かでたくましい子どもの育成

文責 校長 小林

新しい年 2019年を迎えて



保護者の皆様方には、ご家族そろって佳き新年を迎えられましたこととお慶び申し上げます。また、皆様のご家族のご多幸と、子どもたちの健やかな成長、幸せな1年を心より祈念申し上げます。

3学期は、1年間の中でも最も短い学期で、登校日も学年により異なりますが、およそ50日です。進級に向け1年間のまとめをする時期、特に、6年生にとっては小学校最後の学期となります。一人一人の児童が自分の力を出し切ってがんばることができるよう、教職員が一丸となって支援していきたいと思っております。

さて、20世紀は、乗り物の発達が私たちの生活を大きく変化させ、21世紀は、ICT等の情報機器が私たちの生活を大きく変化させ、価値観も多様化してきています。

そして、これからの教育も、益々多様となることが予想されます。しかし、どんなに価値観が変わろうとも、「不易と流行」と言われるように、「生命への畏敬」や「思いやり」の大切さは普遍だと確信しております。特に、「チャレンジ精神を持つ子ども」「知識・技能をもとに、考え方を創り出す子ども」「コミュニケーションのできる子ども」が、益々期待されると考えます。

伊勢小学校も新しい時代の求めに向い、確かな学校・学級生活の基盤のもとに、主体的・対話的で深い学びを通して「豊かな心を育む教育、確かな学力の育成」を目指しています。昨年も日々の学習指導や地域の多くの方々のご協力を得ながら、創意工夫した授業を行ってきました。これらの授業や活動を通して、子どもたちの主体性が育ちつつあるように思います。テレビや新聞報道では、いろいろな教育の歪みを指摘していますが、個々の家庭、学校が、地域に支えられながら努力すれば、向上心のある明るい生き生きとした子どもたちを育成できると思っております。

地域の宝として、未来をたくましく心豊かに生きる子どもに育てるためにも、本年も、保護者の皆様方のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

オリオンの盾新しき年に入る 橋本多佳子氏

毎年、新年には、この俳句を紹介しています。

私は、家に帰ると、愛犬の黒柴（名前は「こなつ」と言います）と、近くの土手まで散歩に行くのを日課としています。新年を迎えるこの時期の凜とした冬の冷気に佇むと、自然と身が引き締まる思いがします。

昨年は、12月に「ふたご座流星群」を素晴らしい条件で観察することができましたが、そんな特別な星空でなく、この時期、ふと見上げる夜空には、オリオン座、おおいぬ座、ふたご座、おうし座の星々が輝き、宇宙の大きさ・深さを感じることができます。

特に、夜空にひときわ輝くオリオン座は、私の大好きな星座の一つです。今年も新しい年を迎え、この句のように、新しい気持ちで子どもたち一人一人のために、より一層努力する気持ちを新たにしました。

私たち伊勢小学校の教職員も新年にあたり、子どもたちと力強く新しい一歩を踏み出していきたいと願っています。子どもたちが、かしこく、やさしく、そしてたくましく新たに成長できる1年となるよう、皆でチャレンジする気持ちを持ち続けたいと思っております。

☆オリオンのペテルギウス、おおいぬ座のシリウス、こいぬ座のプロキオンの3つの一等星を結ぶ冬の大三角は、この時期、皆さんの家からもよく見えると思います。防寒と安全に気をつけて、家族で夜空の星々を眺める機会が持てたらよいと思います。



